

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

( 3 年計画の 2 年目)

## 1. 研究課題

前近代ユーラシア東方における戦争と外交

Warfare and Diplomacy in Pre-modern Eastern Eurasia

## 2. 研究代表者氏名

岩井茂樹・古松崇志

Iwai Shigeki, Furumatsu Takashi

## 3. 研究期間

2018 年 04 月 - 2021 年 03 月 (2 年度目)

## 4. 研究目的

ユーラシア東方は、草原・砂漠から成る乾燥地帯の中央ユーラシア東部と世界屈指の農耕地帯である中国本土とにまたがる地域である。そこは、古くから北の遊牧・狩猟民と南の農耕民という異なる生態環境に根ざした生業を持つ人びとが接触・交流する場であった。北方の遊牧・狩猟民集団は、前近代には最強だった騎馬軍事力を武器として、何度も強大な遊牧王朝を形成して南の中国王朝と対峙し、ときには中国本土を軍事制圧して支配下に入れることもあった。北方草原の遊牧民と中国本土の農耕民とあいだの対立・共存・支配被支配・融合といった多様な関係性は、ユーラシア東方の歴史の基調をなすといつてよい。本研究では、12 世紀前半にマンチュリアより勃興してユーラシア東方に覇を唱えた金(女真)と宋朝との関係をおもに記した南宋時代の史書『三朝北盟会編』を取り上げる。文献の精読をつうじて、ユーラシア東方における遊牧王朝と中国王朝とのあいだの戦争と外交の実態を実証的に解明するとともに、金の華北征服という北方からの衝撃が、当時の中国の政治・社会・文化にいかなる影響を及ぼし、いかなる変容をもたらしたのかという、中国史上の重要な問題を考究することをも目指すものである。

In Eastern Eurasia, there have been constant exchanges and interactions between pastoral nomads of the eastern part of the Eurasian Steppe and settled agriculturalists of China proper. Northern pastoral nomads founded several powerful nomadic dynasties, based on a strong cavalry force, which was the most preeminent military technology in pre-modern times; they confronted the Chinese dynasties and even conquered China several times. Relations between pastoral

nomads from the steppe and agrarian people of China were dynamic and diverse, including military conflict, domination, coexistence and fusion. They can be regarded as the basic patterns of Eastern Eurasian history. This project will focus on the Southern Song history book "Sanchao beimeng huibian", which mainly deals with the diplomatic relations of the Song dynasty with the Jin dynasty of the Jurchen people during the first half of the 12th century, when the Jin dynasty established hegemony in the multi-state system of Eastern Eurasia. We will use the documents included in this book to analyze the characteristics of warfare and diplomacy between Nomadic dynasties and Chinese dynasties. In addition, we will examine the impact and influence of the Jin conquest of Northern China on the politics, society and culture of China, including Northern China under the Jin and Southern China under the Southern Song.

#### 5. 本年度の研究実施状況

研究テーマの「前近代ユーラシア東方の戦争と外交」について具体的に考察するための題材として、南宋時代の史書『三朝北盟会編』の会読を進めた。16回にわたって『三朝北盟会編』の会読をおこない、『中華再造善本』所収の中国国家図書館(北京図書館)所蔵の明鈔本を底本に、テキストの校訂・訳注作業を進め、巻四の途中から巻八までを読み終えた。また関連する研究発表を2回開催した。

#### 6. 研究成果の概要

なし

#### 7. 本年度の研究実施内容

- 2019-04-09 会読:『三朝北盟会編』巻四 発表者 小野達哉
- 2019-04-23 会読:『三朝北盟会編』巻四 発表者 木村可奈子
- 2019-05-14 会読:『三朝北盟会編』巻四 発表者 木村可奈子  
会読:『三朝北盟会編』巻四～五 発表者 濱野亮介
- 2019-05-28 会読:『三朝北盟会編』巻五 発表者 岩本真利絵
- 2019-06-11 会読:『三朝北盟会編』巻五 発表者 岩本真利絵
- 2019-06-25 会読:『三朝北盟会編』巻五 発表者 武田和哉
- 2019-07-02 研究発表:「天津図書館蔵『大明恭穆獻皇帝實録』と嘉靖時代の編纂事業」  
発表者 城地孝
- 2019-07-09 会読:『三朝北盟会編』巻六 発表者 伊藤一馬
- 2019-07-23 会読:『三朝北盟会編』巻六 発表者 伊藤一馬  
会読:『三朝北盟会編』巻六 発表者 矢木毅

- 2019-10-05 研究発表:「北宋「君主独裁制」と徽宗朝」 発表者 藤本猛
- 2019-10-15 会読:『三朝北盟会編』巻六 発表者 毛利英介
- 2019-11-05 会読:『三朝北盟会編』巻六 発表者 毛利英介  
会読:『三朝北盟会編』巻六 発表者 高井たかね
- 2019-11-19 会読:『三朝北盟会編』巻六 発表者 高井たかね  
会読:『三朝北盟会編』巻七 発表者 水越知
- 2019-12-03 会読:『三朝北盟会編』巻七 発表者 水越知  
会読:『三朝北盟会編』巻七 発表者 遠藤総史
- 2019-12-17 会読:『三朝北盟会編』巻七 発表者 遠藤総史  
会読:『三朝北盟会編』巻四 発表者 城地孝
- 2020-01-14 会読:『三朝北盟会編』巻八 発表者 古松崇志
- 2020-01-28 会読:『三朝北盟会編』巻八 発表者 小野達哉
- 2020-02-18 会読:『三朝北盟会編』巻八 発表者 井黒忍

#### 8. 共同研究会に関連した公表実績

なし

#### 9. 研究班員

所内

岩井茂樹、古松崇志、矢木毅、村上衛、高井たかね

学内

学外

井黒忍(大谷大学)、伊藤一馬(大阪大学)、岩本真利絵(大谷大学)、遠藤総史(大阪大学)、小野達哉(同志社大学)、加藤雄三(専修大学)、木村可奈子(名古屋大学)、小林隆道(神戸女子大学)、承志(追手門学院大学)、城地孝(同志社大学)、武田和哉(大谷大学)、橋本雄(北海道大学)、濱野亮介(大谷大学)、藤原崇人(龍谷大学)、船田善之(広島大学)、水越知(関西学院大学)、毛利英介(関西大学)、齊藤茂雄(大阪大学)、藤本猛(清泉女子大学)、古畑徹(金沢大学)、渡辺健哉(大阪市立大学)

## 10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	0	5 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	52 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
学内	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
国立大学	0	5 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	44 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学	0	14 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	89 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	0	24 (3)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	185 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※( )内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数  
なし

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由  
なし

13. 次年度の研究実施計画

『三朝北盟会編』の会読を継続する。

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

なし

